

平成25年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	鹿児島県教育委員会
研究開始年度	平成24年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

設置者	学校種	学校名（ふりがなを付すこと）
鹿児島県	特別支援学校	かごしまけんりつかごしまろうがっこう 鹿児島県立鹿児島聾学校

### 2 研究テーマ

専門高校等との交流及び共同学習やデュアルシステムを活用した教育課程の編成

### 3 研究の内容

#### 【研究内容】

本研究では、生徒の多様なニーズに対応し、社会人として自立するために欠かせない様々な力を育成できる教育課程の編成を目指し、1年次は、職業観や学力に関する実態調査、インターンシップや交流及び共同学習の課題の分析、キャリア教育推進やデュアルシステム導入の先進校からの情報収集、現行教育課程の課題の集約と分析を行った。

研究のまとめとなる2年次は、より実際の進路との関わりが深く、職業学科の特質に即したインターンシップや校外での実習等の取組とデュアルシステムの構築、これらを踏まえた教育課程の編成につながる以下の内容に取り組んだ。

- 専門的知識や技能の向上
  - ・ 1年次の反省を基にした専門高校や関係機関との交流及び共同学習の実施
  - ・ 障害者技能競技大会や高校生ものづくりコンテスト、理容師技術大会といった各種大会への出場推進
  - ・ 外部人材の活用（卒業生や企業の人事担当者、学科に関連のある専門職従事者等）
- 勤労観・職業観や社会性の育成
  - ・ 生徒自らが訪問地や移動手段を計画し、体験的な研修を行う研修旅行の実施
  - ・ インターンシップの課題整理に基づく鹿児島聾学校版デュアルシステムの検討
- 基礎学力の向上
  - ・ 国語、数学を中心とした評価シートの作成と活用
  - ・ 客観的に学習状況を把握するための学力検査等（「CRT」や対外模試）の実施と結果の分析
- 教育課程の見直し
  - ・ 共通教科の科目数・単位数及び履修学年等の見直し、週時数の見直し
  - ・ 学校設定教科「キャリアアップ」・科目「キャリアアップⅠ～Ⅳ」の検討

#### 【評価の観点及び評価方法】

- 専門高校や関係機関との交流及び共同学習，各種大会出場や検定受検及び外部人材活用により，専門的知識の習得や技能の向上ができたか。（目標の達成度や関係機関との連携の在り方等について，生徒や職員による事後評価と関係職員の反省や課題のすり合わせにより評価する。）
- 生徒自身の企画による研修旅行や自分の進路との関わりの深いインターンシップは，生徒の勤労観・職業観や社会性の育成につながったか。（目標についての生徒による事後評価と職員の反省・課題のすり合わせにより評価する。）  
一貫して職業観の育成を目指すことにつながる鹿児島島嶼学校版デュアルシステムの整理，構築ができたか。（先進校の取組との比較及びインターンシップ先の事業所からの評価や生徒の反省，職員のアンケート等を基に，第三者を交えて評価する。）
- 生徒の基礎学力の向上ができたか。（評価シートや学力検査等による学力の定着状況の把握及びそれらの評価結果を各教科担当や保護者と共有し，授業づくりに活用する取組の状況により評価する。）
- 様々なニーズに応え，基礎学力の定着や勤労観・職業観の育成につながる教育課程の編成ができたか。（研究成果や課題の教育課程への反映状況により評価する。）

#### 4 研究成果の概要

- 共同学習に主眼を置いた専門高校等との交流及び共同学習，各種大会への出場や検定受検及び外部人材活用を通して，生徒は専門的知識や技術の向上について外部からの評価を得ることになり，このことが自らの将来について目標を持ち，主体的に考える姿につながった。また，教師については，交流相手校の指導者とのチームティーチングの取組や情報交換を自分の指導方法の工夫や改善につなげたり，外部講師の専門的な技術や仕事への熱意を専門科目の指導や進路指導等に生かしたりすることができた。
- デュアルシステムへの発展をねらいとしたインターンシップを実施することにより，生徒は，職業に対する視野を広げ，将来の姿を具体的にイメージできるようになった。また，学校での授業と関連した職種の経験により，実践的な技術を習得することにつながった。さらに，事業所等からの評価を通して，進路実現のために必要な自らの課題に気づき，それを克服しようとする姿勢が見られるようになった。
- 国語，数学の評価シートや学力検査等の客観的評価を，教科担当教員だけでなく担任や他の教科担当教員，保護者と共有し，それぞれの授業や家庭学習へフィードバックする継続的な取組を行うことができるようになった。特に，文章読解力や計算力については，生徒が卒業した後も資格の取得等のために必要となることから，確実に身に付けることができるように，教員の指導力の向上がより重要になると考える。
- インターンシップの内容や回数，実施時期の変更，各種大会出場や検定受検により明らかになった課題等を踏まえた年間指導計画や授業内容の改善，修学旅行から研修旅行への変更，学力検査等の分析結果や評価シートの活用による共通教科の科目数や単位数，履修学年等の変更，学校設定教科・科目の開設，週時数の変更など，様々な観点から教育課程を見直し，編成することができた。今後は，社会人として自立するために欠かせない様々な力を育成するために大切にしたい視点を共有し，教育課程の改善，編成に学校全体で取り組んでいく必要がある。